



小網代通信

発行：小網代ヨットクラブ
〒238-0225
神奈川県三浦市三崎町小網代
1385-18
編集：広報委員会
編集長：里吉美恵子
連絡先：office@koaziroyc.jp

Koaziroyc Yacht Club

2024年4月号 VOL-310

2024.4.10 発行

今月の内容

ページ

連絡事項	(編集委員)	1
「アニオールズカップの報告」	(仰秀 関根 佑樹)	2
「外洋学連杯(アニオールズカップ)に参加して」(くろしお 岩本・藤田・渡邊・畔蒜・川上)		3

今後のイベント予定

4月 KFR	:4月21日(日) Eコース(10:25 予告 15:00 タイムリミット)
総務委員会	:4月22日(月) 19:00~ ハイブリッド(品川でリアル会議とZoom会議)で実施

連絡事項

1. ANIORU'S CUP 2024 (アニオールズカップ 2024) 「仰秀」優勝おめでとうございます。

3月1日~3日にかけて愛知県豊川市の三河みとマリーナで日本学生外洋帆走連盟主催のANIORU'S CUPが開催されました。「学生の、学生による、学生のためのヨットレース」ということで学生の皆さんで大会を運営しています。小網代ヨットクラブから「仰秀」と「くろしお」の皆さんが参加しました。小網代ヨットクラブでは毎年この大会に協賛し応援しております。実行委員会から当クラブに開催の御礼と大会報告書をいただきました。またこの大会に参加しました「仰秀」と「くろしお」の皆さんからもレースの報告をしていただきました。天候に左右された悩める三日間を2ページと3ページに掲載しましたのでお読みください。このレースは、J/24を使用して行ないますので、普段自艇のクルーザーで活動する「くろしお」の皆さんには良い経験となったこととでしょう。優勝された「仰秀」の皆さんは、J/24世界選手権の9月の大会に向け現在練習に励んでいます。皆様からの応援もよろしくをお願いします。

小網代ヨットクラブ玄関に掲示された大会ポスター ⇒



2. テンダー棧橋にエイをみかけました！！ 春になったんですね。



アニオールズカップの報告

東京大学ヨット部クルーザー班 主将 関根佑樹

こんにちは！東京大学ヨット部クルーザー班「仰秀」です。

この度は、3月の1～3日に開催された蒲郡での「アニオールズカップ」で優勝することができ、とても光栄に思っております。

「アニオールズカップ」は、クルーザーの学生日本一を決める大会であり、今年も蒲郡の三河みとマリーナにて開催されました。この大会で2018年以来、6年ぶりに学生クルーザーの日本一という称号を取り戻すことができ、嬉しく思っております。

このような称号を奪還することができたことは、ひとえに小網代ヨットクラブという整った練習環境のおかげであり、クラブのメンバーの方々や関係者の皆様この場をお借りして感謝申し上げます。また、小網代ヨットクラブに所属する艇として千葉大の「くろしお」とともに出場することができ、互いに切磋琢磨することができたことも非常に有意義なことであったと感じております。

さて、大会当日は、練習日であった3月1日、レース1日目の3月2日ともに強風のため船を出すことができず、レースは全て最終日の3月3日の結果のみで決定するという、予定よりも短期決戦となってしまいました。

弊部はマネージャー含めて8人という人数で蒲郡まで遠征しており、1日目2日目は、昼間はアンパイアの方の座学であったり、交流会などをして他大学との交流を深めました。また、晩ごはんでは部のメンバー8人で毎回一緒に食事をとり、部内でも交流を深めました。

2日目の夜には、翌日のレースで勝敗が決するというので「勝つ」と「カツ丼」をかけて、泊まっているペンションの近くのカツ丼屋で夕食をとりました。その油が悪かったのでしょうか。なんとレースメンバーの1人が夜中にお腹を壊してしまいました。結局、翌朝まで治ることはなく、レース当日を迎えました。

そんなハプニングもあり、本来ならばレースメンバー6人のところ、5人で出場するという予定外の幕開けとなりました。

1レース目、最初のレースということで景気付けに1位をとりたいところでしたが、海面選択を間違え、メインシートトラブルもありつつ、ライバルの神戸大学に1位をとられるという悔しい滑り出しとなりました。

2レース目、3レース目は特に大きなミスをすることもなく、順当に1位を取ることができ、少し安心したところでした。

4レース目、ここで1位をとれば優勝は確定というレースでした。しかしこのレースで少し風が入ってきてしまい1人クルーが少ないため走り優位に立つことができずでした。結局、このレースは3位という成績で、最終成績は最終の第5レースに持ち越されることとなりました。

5レース目、予定されていた最終レースであり、カットレースも含め神戸大学と互角、このレースで勝ったチームが優勝というレースでした。実は、このレースの直前まで第4レースから残っていた少し強い風が吹いていたのですが、スタート付近で少し風が落ちるというラッキーな展開に。これによって走り負けることがなく、結果1位でフィニッシュすることができました。

最終日で全て結果が決まる短期決戦の中、最終レースまで結果が分からない接戦を制することができたのは大きな収穫であり、自分たちの運の良さも発揮できたのではないだろうかと思っております。

今後も、9月末にシアトルで開催されるJ/24世界選手権を目指して頑張っております。応援のほど宜しくお願いいたします。



外洋学連杯（アニオールズカップ）に参加して

千葉大学ヨット部くろしお 現役一同

今年3月初めに開催された外洋学連杯（アニオールズカップ/J24による上下レース/三河みとマリーナ）に、東京大学、神戸大学、防衛大学とともに参加しました。アニオールに参加したメンバーそれぞれの感想を報告したいと思います。



【新3年 岩本】OBの方や先輩方が同乗されない状態でレースに出場したのは初めてで、入部してから1番よく頭を使ったレースでした。レース出場の準備、準備信号が出てからスタートまでの位置取り、セイルトリムやコース取りなど、今までは誰かに教えていただいていたものを、自分達で意見を出し合い試行錯誤しました。そのため、レース結果は良くななくても学ぶことはたくさんあり、今後の活動目標に繋がる良い経験となりました。いつもの練習だけでは得られないことが、レースやクルージングでは得られるため、今後、より幅広く活動できたら良いと感じました。



【新3年 藤田】学生だけでレースに出るのが初めてだったので、とても楽しかったです。自分たちで何レースか走り切れたのは収穫でした。また、レベルの高い他大学と一緒に走ることで、自分達の改善すべき点があったので、それも良かったです。チーム全員で技術を磨き、次に参加する時にはもっと高いレベルの走りが出るようにしたいと思います。

【新3年 渡邊】今年のアニオールズカップは、昨年より2校少ない中での開催となりました。その中で、当時2年生が最上級生となる千葉大学が出場するか否かを部員で話し合い、出場を決めました。そして結果は4校中4位という結果だったのですが、本年度は第一に安全に走るという目標を掲げていたので、事故なく無事に終わられた事は本当に良かったと思っています。また、学生だけのレースというのは新体制になってから初めてだったので、部員それぞれが普段以上の緊張感をもって励めたと思います。

【新3年 畔蒜】今回、千葉大は人数がギリギリでしたが、千葉大学としてアニオールズカップに出られたことは良かったと思っています。今回は良い成績ではなかったですが、自分たちの実力がどれくらいのものか分かり、他大学がどのような走りをするのかを見ることができたので良い刺激になりました。次は3年生として参加する予定なので、今回の経験を活かして、練習を重ね、レースに臨みたいです。

【新2年 川上】今回のアニオールズカップでは、風が強い時間が長く、レースができるかどうか危ぶまれましたが、なんとかレースを行うことができて良かったです。結果は残念でしたが、今回の経験を、次の大会に少しでも活かせたら良いと思っています。

アニオールズカップに参加して、部員それぞれが感じたことや考えたことがあるので、それらを活かした目標を立て、練習を積み重ねた上で来年はバンジしたいと思います。